

⑧気持ちはずまない	10.6	2.8	4.8	1.5
⑨食欲がない	2.1	0.3	2.5	0.0
①から⑨の平均	18.9	12.0	12.7	6.8

\*数値は4段階尺度で「しょっちゅうある」の割合

## 2. 里子の属性

里親が何人かの里子を養育している場合を考えて、以下では、里子が一人の場合はその子について、里子が複数の場合は「一番養育が大変だった子」を「Aちゃん」として抽出し、回答を求めた。

### 1) 里子の基本的属性

表11によれば、受託した時の里子の年齢は、2歳未満の乳幼児が占める割合が41.2%と最も多い。また、委託されてからの期間を見ると、10年以上養育している里子の16.4%を含めて、5年以上里親の家で生活している里子は44.4%とほぼ半数に達している。

表12には、里子がどんな経緯をたどって里親に委託されたかを示した。①乳児院から、②児童養護施設から、③実親からに、ほぼ3分されている。こうした里子の生育環境の問題が里親の養育の困難さにどう関係するかは後に検討する。

表11 Aちゃん(抽出児)の属性 (%)

性別	男子 51%				女子 49%			
	受託時の年齢	0歳	1～2歳	3～4歳	5.6歳	7～9歳	10～12歳	13～15歳
	11.6	29.6	19.1	12.7	9.1	6.6	5.5	1.1
養育年数	0年	1年	2年	3.4年	5,6年	7～9年	10～12年	15年以上
	3.6	16.6	13.7	22.0	14.5	13.5	9.3	7.1
現在の年齢	0～1歳	2～3歳	4～6歳	7～9歳	10～12歳	13～15歳	16～18歳	19歳以上
	3.3	8.6	20.1	17.2	15.5	15.5	15.9	2.7
学校段階	乳幼児	幼稚・保育	小学生	中学生	高校生	大学専門	社会人	その他
	6.8	22.3	34.2	16.2	16.8	1.2	1.6	0.9
在学生の場合	普通学級に在籍が84.7%				特別支援学級に在籍が15.3%			

\*Aちゃん(抽出児)とは、里子が一人の場合はその子を、複数の里子を育てている場合は、一番養育が大変な子とした

表12 Aちゃんはどこから来たか (%)

	乳児院から	乳児院+施設から	乳児院を経由せずに施設から	実親の家庭から	他の里親や親戚から	その他
全体	32.6	16.1	7.8	30.1	6.9	6.5

## 2) 学校適応

次に、Aちゃんが小学生以上の場合の学校適応をみる。表13に示したように、まず里子たちの成績は「中の下、下の方」が合わせて46.5%、「上の方、中の上」が合わせて22.5%。成績はおおむね芳しくないが、一部は善戦している。表11で見たように、里親の家庭での生活が長い里子もおり、里親による熱心な教育の結果かもしれない。しかし、勉強は「嫌い」が50%もあり、全体に学習状況は芳しくないようである。

しかし表13で見ると、里子たちは「学校に行く」のは好きで、「やや好き」の18.4%を含めて、「学校が好き」な子は58.8%。また「友だち関係」は、よくない子も20.1%いるが、「友だち関係」のいい子が41.3%、ふつうも39.4%で、合わせると8割が友だち関係は良好のようである。里子の中には、家庭という人間関係の密な閉ざされた空間より、むしろ学校のように開放感のある場を好む子も多いようである。

表13 学校への適応 (%)

学業成績	上の方	中の上	中位	中の下	下の方
	7.6	14.9	31.0	18.8	27.7
勉強が好きか	とても嫌い	やや嫌い	普通	やや好き	とても好き
	19.5	30.5	33.8	11.5	4.7
学校に行く	とても嫌い	やや嫌い	普通	やや好き	とても好き
	4.3	8.1	28.8	18.4	40.4
友だち関係	とてもいい	ややいい	普通	ややよくない	とてもよくない
	13.4	27.9	39.4	16.3	2.9

## 3) 退行（赤ちゃん返り）

続いて里子の環境適応に関連した項目として、里親の家に来た当時の退行（赤ちゃん返り）をみていく。

きょうだい関係の中で、下に赤ん坊が生まれると、しばしば上の子が退行することはよく知られている。里子たちも里親の家に委託されて、そこが安定した環境だと知ると、しばしば退行（赤ちゃん返り）を起こすことは、里親研修の際の講義項目の一つである。表11で見たように、本サンプルが里親の家に委託されたのは、乳幼児期が73%と殆どであるが、退行をどの程度起こしたかが表14である。「とても大変だった」とした里親は3割と少ないが、その内容の自由記述をまとめたのが巻末の資料1である。

内容を整理してみると、いわゆる退行（乳を探る、おんぶや抱っこをせがむ、出産ごっこをする、赤ちゃん言葉をつかう、わがままをする）と、もう一つは、いらだちを示し、暴れる様子がみられる。巻末の集計表によると、すぐ始まる子もいるが、1か月位で始まる子が38.2%と最も多い。実親から受けられなかったマザリングへの渴望があり、里親に委託されて安心感が得られた中で発生するのであろう。プレイセラピィの臨床で、子どもがプレイルームに慣れて、セラピストと信頼関係が成立すると、セッションの中で攻撃性が高まる現象と似ている。また終了時期は、1年か2年で6割強が終わるが、3.4年かそれ以上続く子も4割近くいる。長期間続く子は、退行というよりも、里親の家庭への不適応など、別のメカニズムから説明されるのではなかろうか。

表 14 退行（赤ちゃん返り）の有無 (%)

	あまり気がつか なかった	多少あったが すぐ終わった	ある期間、とても 大変だった
全体	40.3%	28.5%	31.3%

#### 4) 虐待を受けた体験

Aちゃんが親から引き離され、里親に養育を委託された理由は何か。表 15 によれば、「親から虐待を受けて」が 70.3%、「親が死亡・病弱」は 38.9%（複数回答）。それにしても本サンプルの場合に、虐待された子が 7 割という数値が高さには驚く。しかし虐待にも様々タイプがあり、また残りの 3 割も、理由はともかく実親から引き離されて、実親の家庭と違った環境に移されたという意味では、これも過酷な体験と言えるであろう。里子の殆どが、心に傷を負った子どもと見ていいと思われる。

表 15 A ちゃんの委託理由 (%)

	親からの虐待			親が死亡・病気			児相の説明	
	はい	いい え	不明	はい	いい え	不明	なし	あり
全体	70.3	23.4	6.3	38.9	52.0	9.2	19.0	81.0

虐待と言う体験は、年齢が低いほど、子どもの心身発達や心の世界に少なからぬ影響を与えるであろう。現在、里子はどんな心の世界の住人として暮らしているのか。里子と 24 時間一緒に生活している里親たちは、その心の中にあるものを感じとっているに違いない。里子の行動の中に、里親が「虐待の影」を感じるかを尋ねてみた。

表 16 を見ると、里子に虐待の影を「とても感じた」里親は 32.3%、「少し感じた」の 38.8% を含めると 71.1%。この数値は虐待があったとした 70.3% とほぼ一致する。虐待を受けた子どもの中には、程度の差こそあれ、今も何らかのネガティブな影響が残っているのではなかろうか。なお、里親が感じとったその「影」の詳しい内容は、里子の内的世界を知る資料として、ここでアウトラインを示したが、内容の詳細は巻末の〈資料 1〉に掲げてある。

表 16 (里親が感じた) 虐待の影 (%)

	影をととても 感じた	影を少し 感じた	何も 感じなかった
全体	32.3	38.8	28.9

なお虐待の有無と委託年齢の関連を見ると、表 17 が示すように、年長で委託された里子ほど、虐待を受けた子の割合が増加している。虐待を受けた割合は、乳児の場合 63.1% だが、小学高学年生以降では 8 割を上回る。

表 17 虐待×委託時の年齢 (%)

	虐待あり	虐待なし	不明
全体	70.3	23.4	6.3
乳児	63.1	29.5	7.4

委託 時の 年齢	幼児	68.0	24.1	7.7
	小学低学年	76.1	19.6	4.2
	小学高学年	84.0	16.0	0.0
	中学生以上	86.1	9.9	4.0

## 5) 虐待の影—里親の自由記述から

### (1) 事例の整理

虐待を受けた里子たちは、里親の家庭に保護された後でも、その心の世界になおも過去の体験が影を落としているのではなかろうか。里子への理解と里親支援のために、その様相を知っておくことはぜひとも必要であろう。しかし直接里子の心の世界に接近することは難しいので、里親が記入した「虐待による影」の自由記述部分から、里子の心の世界を描こうとした。

調査票の文章は「里子に、虐待された（つらい思いをした）影のようなものを感じられた方は、どんな時や場面、行動でしたか」である。およそ 3×15 センチのスペースに、また欄外に書きこまれた自由記述の全内容は巻末に〈資料 1〉として収録したが、ここでは、里子の棲む心の世界のアウトラインを掲げる。

アンケートから得られた量的資料とは違って、小さくとも一種の事例を拾い上げる作業であるので、類似の記述は省いて、里子の世界や行動の特徴が鮮明に記述されている 115 個の事例を入力し、構造化して解説を加えた。

それぞれの事例には、次のようなマークを記入した。サンプル番号、現在の年齢と性別、委託時年齢、その後「養育の困難さ」を次の形で示した。(1.育てるのが、ひどく難しい子 2.普通ぐらいの難しさの子、3.わりと育てやすい子、4.とても育てやすい子)。また、

(1) 里子のとの「気持ちの通じ合い」(1.どうしても、通じ合わない 2.時々通じないと思うことがある 3.わりと、気持ちが通じている 4.とても、気持ちが通じている)、

(2) 里子を育てる中で、里母が完全に「自信を無くしてしまったこと」があるか (1.わりとそうだった 2.少しそうだった 3.あまりそうでなかった 4.そうでなかった)、

(3) この子は家庭養育より「施設養育の方が向いている」かもしれないと思ったことがあったか (1.度々思った、2.たまに思った 3.思わなかった)、

(4) 「養育の返上」をしたいと思ったことがあるか (1.何度も真剣に考えた 2.返上したいと言う気持ちになったことも、何度かある 3.返上したい気持ちは、ほとんどなかった 4.全くなかった)

以上を番号で示した。また、里子が委託されるまでの環境も委託時年齢の後に\*で記してある。(資料 2 参照)

例えば冒頭の○991 (12 歳 8 月男子) 4 歳～、③、3.3.3.3 \*親戚からは、サンプル番号 991 は、「現在 12 歳 8 カ月の男子、4 歳から委託、③わりと育てやすい子、3.わりと気持ちが通じている 3.自信をなくしたことは、あまりなかった 3.施設養育の方が向いていると思ったことはない 3.養育返上の気持ちはほとんどなかった \*親戚からの委託」である。なお、115 事例の中で「③育てるのがひどく難しい子」と記された事例は 60 事例で、全体の 53.6%に上る。

### (2) 虐待された子の内的世界

里親の家庭に委託された里子たちには、生まれて間もない子もいれば、13 才を越えて委託された子もいる。乳児は 11.6%と少ないが、4 歳までの子が 73%とほとんどである。親から引き離された理由は、すでに見たように、親による虐待が 7 割で、親の死亡が約 4 割

(一部重複)。いずれにせよ悲惨な思いをした子どもたちである。

里親はそうした里子を精一杯その手に抱きとろうとする。しかし逆境の中にいた里子たちにとって、里親の家がどんな環境かは知るところではない。委託先の里親の家庭で、里子たちはどのような姿を見せるのか。以下は里親の目に映った里子の心的な世界の様相である。ここには、各項目について2事例(31個)を抜粋して掲げた。なお、サンプル番号の前の●は、医師に発達障害と診断されたか、またはそれを疑わせる事例で、115事例中18事例(15.7%)に上る。

## I) 出会った時の里子の姿

### —里親の目に映った行動の偏り

里子を委託された当初、里親が里子の上に見たのは、まず発達の遅れと行動の偏りであった。おそらく生育環境の偏り(物的、文化的欠乏)や異常な体験(虐待)がもたらしたものであろう。

### 1.しつけ・教育・生活経験の欠乏

○991(12歳8月男子)4歳～、③、3.3.3.3 \*親戚から

4歳でもトイレが一切できなかつた。おんぶも抱っこもだめ。歩くのもやっと。オウム返ししかしゃべらなかつた。

○763(16歳4月女子)14歳～、②、3.4.2.2 \*児童養護施設から

実親は障害があつたので、何もない環境で育ってきたせいか、言葉の使い方を知らず、生活面でも、排泄後の後始末や掃除の仕方など、何もできていなかつた。好奇心はあるので、人の物をだまってもっていき、使う。ネコを洗濯機にいれ、まわそうとした。

### 2.虐待体験の再現

今もなお里子たちには、虐待されていた頃の情景がよみがえることがある。

○126(13歳女子)4歳～、②、3.2.3.3 \*不明

虐待ごっこ遊びをしたがり、幼稚園の友だちにも「お尻を鞭で叩いて」とお願いしたりした。

## II) 里子の棲む「不安と恐怖」の世界

### —現実の脅威、記憶による脅威

多くの里子たちを今も支配しているのは、実親の家庭で生活していた当時の種々不幸な体験であろう。様々な実親の姿が、折に触れて里子の心に現れる。彼らは実親を忌避する。里親の家庭のぬくもりが里子の心の傷を回復させるのは、いつなのか。

### 1.親は怖い・親は嫌い

○792(15歳女子)3歳～、①、1.1.1.2 \*児童養護施設から

(乳児院に生後3週間で入れられ、こちらからは実親のことは何も話していないのに)小学校1,2年の頃、「大人のくせに子どもを捨てるなんて最低だ」と口走ったことがありました。

○559(4歳10月男子)1歳～、②、2.2.2.2. \*児童養護施設から

実母が面会に来ると、毎回「怖い!」と泣きだして逃げ出す。普通の会話の時も、実母のことが出ると、泣くこともある。

## 2.人は怖い（里親も）、人を避ける（里親も）

そうした実親との不幸な体験は、実親へのネガティブな感情にとどまらず、しばしば人一般に対する感情、すなわち「人間観」に影響を及ぼす。生きるとは、様々な人の中で生活していくことである。彼らは、いわば怖いもの、苦手なもの一杯の世界の中で日々暮らしている。

- 861（5歳3月女子）4歳～、①、2.2.1.1 \*実親の家庭から  
裏表があり過ぎる。大人の行動を気にして、とくに視線を気にしている。叱ると「怖い、怖い」と泣く。（沢山あり過ぎて書ききれない）7～12が全て1
- 111（5歳7月男子）3歳～、②、2.1.3.3 \*乳児院から  
初めてのことに固まる（5歳の今でも時々）。来て半年ほど、何かと頭やおなかをかぼうしぐさをした。時々、鋭い目をする。半年ほどは、上手に泣けなかった。

## 3.再度、置き去りにされる不安（「見捨てられ不安」）

- 199（14歳4月男子）2歳～、①、4.3.3.4 \*乳児院から  
ベランダに出て洗濯物を干す間も、敷居一本隔てた部屋にいられず、おんぶして（里母の首にしがみついて）いなければならなかった。そうでないと大泣きした。14歳の今でも、外を一緒に歩くときは、腕につかまってくる。家でも、里母の姿が見えないと、時々呼んで、里母がいることを確かめる。里母が出かけることを異常に嫌がった。「母ちゃん行かないで、いっちゃダメ」という。今でも時々言う。

## 4.恐怖の再現、トラウマ、現実の脅威

そうした漠然とした不安は、時に鮮明に記憶の中に再現され、恐怖の感情やトラウマとして里子の上に襲いかかる。

- 771（12歳4月男子）0歳～、①、4.1.3.4 \*乳児院から  
「ボクはお母さんのおなかの中にいた時、毎日親が喧嘩している声を聞いた。『早く外に出ろ』とお母さんは言ったから、ボクは早く生まれてきたのに、迎えに来てくれなかった」と3歳位の時に言った。よく泣き、暴れる子どもでした。
- 621（10歳2月女子）9歳～、①、3.3.3.4 \*実親の家庭から  
突然、「痛い!」「かゆい!」「寒い!」と長時間泣き叫ぶ。今は無くなってきている。父親からの暴力を話すことがある。

## 5.不安な睡眠、夜泣き、ひとりで寝られない、やたらに泣く

こうした不安や恐怖が、睡眠の際に現れる。多くの子どもに睡眠の不安定さが顕著である。

- 104（7歳6月男子）6歳～、②、3.4.3.3、 \*5歳まで乳児院→他の里親から  
電気を消すと怯えた。天井のしみを見て怖いと言った。怖い夢の話をして沢山した。周囲に目だけが沢山ある。周りに指だけが沢山あって、指さす。
- 106（13歳3月男子）5歳～、①、3.2.2.2 \*児童養護施設から  
13歳の今でもひとりで寝られない。

## Ⅲ) 不安から逃がれるために

こうした不安や時には恐怖の対象から逃れるために、里子たちは様々な方法を試みる。

外に向けて激しい攻撃の形をとることや、逆にスキンシップを強く求めたり、甘えや退行、また自分を閉ざして石になったり、何も感じないでいようにしたり。また、場から逃げ出そうとすることもある。

#### 1. 攻撃と爆発

○359 (14歳男子) 4歳～、①、2.3.3.4

\*実親の家庭から

おもちゃをすぐに分解し、組み立てることをしない。人形の首をチョンパする。友人と交わることが苦手で、特に女子と仲良くできない。自分では意識していないが、女子をいじめてしまう。

○509 (11歳5月女子) 5歳～、①、3.3.3.4

\*児童養護施設から

来た時は5歳でしたが、何事にも否定的で、ぬいぐるみを与えても足で踏みつけ、言葉で「フンジャ、フンジャ」と力を入れて踏んでいました。家族で大きな公園に行った時に、片足がカクン、カクンと力が抜けてしまい、そのまま地べたにあおむけに寝てしまって、びっくりしました。ベランダから物を投げたりはしょっちゅうで、ジュータンの下に物を隠したり、爪を黒マジックで塗ったり、壁やふすまに落書きしたり、選挙ポスターに火をつけたり、高尾山の山中で、幼稚園の帽子を飛ばしたり、家やスーパーで勝手にどこかへ走って行ってしまって、探してばかりいました。

#### 2. スキンシップを求める、里親から離れない

●328 (4歳1月男子) 0歳～、①、3.1.1.1

\*生後7日で乳児院に。発達障害

1人になることを、極端に怖がる。1メートル離れただけで怖いと言うことがあり、びっくりした。沢山人のいるところでは、安心して遊べる。発達障害の知識がなくて受け入れた。今はだいぶ穏やかな子になったが。

●842 (13歳4月) 9歳～、①、2.1.1.2

\*実親の家庭から

9才になったのに、里母に24時間べったり。入浴も就寝も一緒にないと我慢できない。自分本位で、反抗的。祖父、父の死亡の経験に哀悼の言葉を発したことが無い。ADHDでリタリンを処方されている。

#### 3. 心を閉ざす、石になる、話さない、自己抑制 (感じない、泣かない)

○1015 (9歳8月女子) 4歳～、②、3.4.3.4

\*児童養護施設から

ブランコから落ちてても泣かない子でした。

○1006 (3歳4月女子) 2歳～、③、3.2.3.2

\*乳児院から

泣きもせず、笑いもせず、怒りもせず、無表情で、感情表現がうまくできず、これで子どもなのかと思った。子ども同士で遊んでいて、おもちゃをとられても、全く執着せず、物事にこだわりが無かった

#### 4 防御する、鍵を閉める、閉所に入る、退行する、キャラの世界に入る

○347 (9歳2月男子) ②、2、2.1.2.4

\*実親の家庭から

帰ったら、玄関のカギを必ずすぐ閉める。

○350 (8歳男子) 3歳～、②、1.1.3.2

\*他の親戚から

同年齢の子の半分位の体格。押し入れや暗いところに閉じこもる。叱ると、周りの物を投げ散らす。

#### IV) 心のうちと欲求

過去に受けた心の傷をそのままに、不安と恐怖の世界の中にいる里子たち。その不安から逃げようとする手立ては様々だが、それらから十分に逃れることは容易ではない。里子

たちは、漠然とした苛立ちの中にいる。自分のほしいものは何でも手に入れたと思う。外で、母親と一緒にいる幸せそうな幼児をみると腹を立てる。自分を可哀そうだと思ってほしい、助けてほしい、とも思うが、それを言い出せない。人に甘えたいと思っても、甘えられない、助けを求められない。自分を自己否定し、時には「死にたい」と言ってみたりする。結果として、無気力や活力のなさに支配されている子もいる。

#### 1. 漠然としたいらだち

○658 (4歳1月女子) 2歳～、②、3.3.3.3 \*他の里親や親戚から  
言葉遣いが悪く、いつも怒り顔して尖っていた。外に遊びに行くと、お友だちのお母さんに懐く。

○123 (10歳10月女子) 5歳～、③、3.3.3.4 \*児童養護施設から  
幼稚園年長組で預ったが、すぐに「無視しないでよ」といった。無視と言う言葉を知っていたことに驚いた。

#### 2. 「何でもいいからほしい、ひとり占めしたい」

●802(5歳2月女子)2歳～、①、3.1.3.2 (4頁7～12 全て1) \*実親の家庭から  
欲望が果てしない。会話、絵本、テレビ、等の内容を、すべて食べたい、したい等につなげてしまう。すぐかなわないと、獣のように泣き続ける。泣いているうちに、新しい要求に次々とかわって行く。解決できることはしてあげるが、何も聞こうとしない。言葉をリピートしてかぶせてくる。一旦火がつくと、もがいて抱っこもできない。そのうち寝そべて暴れ、ひとりで、床をドンドンと大きな音を立てて蹴り続けながら、いやだ、いやだと、私の目を凝視しながら、さらに大きな声で泣きわめく。

○702 (11歳11月女子) 4歳～、②、2.1.2.2. \*児童養護施設から  
不都合なものは隠す。幼い頃は、尿や便のついたパンツを隠す。学童期は、お菓子を盗み食べて、包装紙を隠す。菓子など、現在も自分だけで食べ、他の家族に分けようとしな  
い。

#### 3. 幸せな子への嫉妬

○317 (6歳8月女子) 3歳～、②、2.2.3.4 \*乳児院、児童養護施設から  
外出先で、親子連れ(赤ん坊を抱っこ、ベビーカーにのせている)を見ると、凝視。固まっていた。現在は気にならなくなっている様子。

#### 4. 「可哀そうだと思ってほしい・助けてほしい」

○757 (7歳6月女子) 2歳～、①、3.1.3.2 \*乳児院から  
委託されて2か月は無表情、無反応。その後優しくしてくれた人には誰にでもついて行く。  
店に入ると店員に「助けて!」と泣きながら抱きつくなど。

○611 (12歳女子) 9歳～、①、1.1.1.1 \*乳児院・児童養護施設から  
里父から暴力を受けたと嘘をつく。嘘がバレると「可哀そうに思われたかったから」という。サンタからプレゼントをもらって喜んでいる園児に、園長が用意しものだと話す。近所の友人宅や担任に、里父母からの本当でないことを種々話し、同情を買おうとする(これはほんの一部です)

#### 5. 「死にたい」、自己否定

○325 (17歳4月女子) 15歳～、①、2.3.3.2 \*乳児院から児童養護施設に、15歳で  
実親家庭に戻り、2ヵ月半で再度不調。  
普通に見えるときでも「早く死にたい」「殺して」と度々言う。人とのコミュニケーション



を極度に恐れている、相手は本人のことを気にしていないのに、攻撃的な言葉や顔つきをする。里母にも。

#### V) 消えない不安

しかし人生の初期に、人との関係の不具合から生まれた不安を取り去ることは容易ではなく、心の奥にしばしば残り続ける。自分を閉ざし、人とかかわるより、1人の世界で安定するかのようである。しかし、それが本当に心の平穏かどうか。活力を喪失した状態の子どももいる。

##### 1.人に甘えない、甘えられない、助けを求めない

○718 (16歳11月女子) 11歳～、①、1.2.3.2 \*実親の家庭から

困った時に、助けを求めない。

○831 (4歳4月男子) 2歳～、③、4.1.3.2 \*乳児院から

来た当時、誰の添い寝も嫌がり、自分の足をもって寝た。自分で何でも解決しようとする。痛い時など、遠くへ走って行ってしまふ。里親に寄ってこない。真実告知をした時は、4歳なのに「全部知っているから、もう言わないで」と言われた。

##### 2.濃い人間関係を嫌がる

○243 (9歳5月) 3歳～、②、4.2.3.2 \*乳児院から

知らない人、その場だけの優しい人について行く、そして離れなくなる。家族など、濃い人間関係を嫌がる。周囲の人の様子や機嫌を伺う。

##### 3.スキンシップは嫌い

○001 (9歳4月男子) 8歳～、②、3.2.3.3 \*児童養護施設から

スキンシップを極端に嫌い、頭をなでたり、肩を叩いたりしただけで、怒鳴りちらしたり、なぐりかかってくる。

##### 4.活力の低下

○005 (16歳3月男子) 15歳～8カ月、②、3.2.2.3 \*不明

とても暗い、地の底に沈むような眼。気力が無く何も見えていないような眼。夢遊病者のように日々の行動をこなしている。

○448 (13歳女子) 2歳～、③、4.4.3.4 \*児相から

口数が少なく、元気がなく、ボーっとしている感じだった。2歳にしては、あまり、走ったりができなかった。

#### IV) まとめ

以上から浮かび上がった里子の心の世界について感じたことを、この章のまとめとしたい。

##### i 「自分は大切にされていない」

里親の目に映った里子たちの姿は様々だが、どの記述を見ても、世界における彼らの「寄る辺のなさ」(2012年度調査での現在の性格特性の因子分析、第2因子)を見る思いがする。この世に生を受けて子どもがまず目にするのは、愛と溢れるばかりの笑顔で自分を取り囲む人々の姿であろう。どの子も自分が世界の中心に置かれ、世界を安全なもの、自分にとって好意的なものと感じながら、人生をスタートさせていく。しかし、このデータに見る里子の姿は、そうした一般の子どもの姿とあまりにもかけ離れている。里子たちは、怖いもの一杯の世界に突然投げ出され、自分には守りがなく、「自分は大切にされていない」と感じているかのようなのである。

## ii 家庭養育か、施設養育か

幼い日々により子たちが受けた深刻な心の傷と、その人間観、世界観に及ぼすネガティブな影響から彼らを回復させる力を持つのは、専門家のいる施設養育だろうか、素朴な里親のいる家庭養育だろうか。里親の家庭に移されて少なからぬ時間を経ても、里子がしばしば、いまだに過去の亡霊に追いかけているかのような姿を見せるのは、痛々しい限りである。こうした事例を前にすると、里子たちが、それ迄の人生で出会えなかった無私の愛をもって、里子たちを受け入れようとしている里親たちの温かさこそが、どんな専門家の療育にも勝るものではないかと思えてくる。

むろん里子たちそれぞれのレジリエンス（立ち直り力）には差もあり、受けたダメージにも差があると思われるので、今後、その療育方法についての臨床的エビデンスの検討が、専門家の間大きな課題であろう。

また、こうした里子の中にある心の世界を理解し、その里子に寄り添いながら、共に長い旅をしていくことは、里親が自ら選択した道である。よき同伴者を得て、それぞれの里子たちの行く手に1日でも早く、明るく大きな世界が開けることを願わずにはいられない。

また、ここまでの資料が示した里子たちの心の世界を理解することなしには、次から見えていく、里親の日々の里子養育の困難さにも思いが至らないのではなかろうか。

## 3. 里子の養育困難をめぐって

先に表7で見たように、里子を「育てるのがひどくむずかしい子」とした里親は33.3%であった。さらに「ふつう位にむずかしい子」とした里親も40.3%あり、「とても・わりと育てやすい子」としている里親は26.4%に過ぎなかった。こうした里子養育の困難さの背景は何から来ているのか。順次見ていくことにしよう。

### 1) 実子の有無や里子の生育環境と養育困難

次からは、デモグラフィックな特性との関連をいくつか拾ってみる。表18は、実子の有無と養育困難との関連である。実子の子育ての経験がある里親と実子のない里親とでは、里子を育てる難しさに違いがあるのだろうか。

表が示すように、養育の困難さは、実子の有無や数と関連がみられない。実子のいない里親の困難度は31.2%だが、3人以上の実子を持つベテランの里親でも37.4%と差は僅かである。「始めての子育てだと、里子に何があっても子どもとはこんなものだろうと思ってしまう」それに対して、実子の子育て経験があると「つい、実子の場合と比較してしまう」との里親の声も聞かれる。

表18 養育の困難さ×実子の有無 (%)

	ひどく 困難	普通位 困難	(困難 小計)	わりと育 てやすい	とても育 てやすい
実子はいない	31.2	40.8	(78.7)	20.3	7.7
実子・1人	29.8	48.9	(74.0)	12.3	9.0
2人	35.5	38.5	(73.2)	18.8	7.2
3人～	37.4	35.8	(72.0)	20.4	6.4
全体	33.3	40.3	(73.6)	18.9	7.5

また表 19 に、委託された時の里子の年齢との関連を示した。

「ひどく困難」の数値は、乳幼児期の里子、とくに乳児の場合は 26.5%と低く、幼児では 36%で、それ以上の年齢で委託された里子より、若干養育が容易なようである。「乳児を抱いたとき、子どもがしがみつくのを感じると、愛おしいという感情が湧いてくる」とは、ある里親の言葉であった。肌を通しての温かさが「心の通い合い」を生むのだろうか。なお中学生以上になると、それなりのコミュニケーション能力や社会性を備えるせいも、「ひどく困難」の数字はやや低下している。

表 19 養育困難×委託時の年齢 (%)

	ひどく 困難	普通位 困難	(困難 小計)	わりと育 てやすい	とても育て やすい
乳児	26.5	43.4	69.9	18.0	12.2
幼児	36.0	38.9	74.9	20.1	5.0
小学低学年	41.2	37.8	78.0	16.8	4.2
小学高学年	42.6	36.8	79.4	19.1	1.5
中学生以上	36.7	38.3	75.0	21.7	3.3
全体	33.3	40.3	73.6	18.9	7.5

表 20 の「里子はどこから来たか」でもほぼ同様な傾向が見られるが、年齢との関連よりも明瞭である。表によれば、「乳児院から」来た子で「(養育が) ひどく困難な子」は 26.7%だが、「乳児院を經由して施設から来た子」は 39.3%、「施設から来た子」41.4%とは大差である。こうした結果を見ても、「幼い子どもは乳児院へ委託せず、すぐ里親に委託を」との里親たちの主張が納得できる。また、親戚など一般家庭から来た子どもは、施設養育のダメージが少ないためか、困難度が低い傾向もみられる。

表 20 養育の困難さ×どこから来たか (%)

	ひどく 困難	普通位 に困難	(困難 小計)	わりと育 てやす い	とても 育てやす い
乳児院から	26.7	44.6	(71.3)	18.2	10.6
乳児院+施設	39.3	34.0	(73.3)	20.7	6.0
施設から	41.4	37.1	(78.5)	17.1	4.3
実親の家庭	35.0	39.4	(74.4)	19.7	5.8
親戚から	30.2	38.1	(60.8)	23.8	7.9
その他	36.7	43.3	(80.0)	11.7	8.3
全体	33.3	40.3	(73.6)	18.9	7.5

次に養育期間との関連を表 21 で見ると、養育期間の長さとの関連は殆どみられない。「ひどく困難」は、1年目が 39.7%とやや多く、2年目、3年目とやや低下するが、6年以上でまた増加している。養育期間が長くなれば「心の通い合い」が進むかに思われるが、養育期間が数年に及ぶと里子は思春期を迎える。実子の場合も、思春期の子どもの扱いに手を焼く親が多い。まして里子の場合、思春期の養育は一層難しいであろう。また、発達障害的な傾向をもった子の場合、養育期間が長くなっても育て難さがいつまでも残るのかもしれない。

表 21 養育困難×養育期間

(%)

	ひどく困難	普通位に困難	(困難小計)	わりと育てやすい	とても育てやすい
1年	39.7	39.0	(78.7)	17.6	3.7
2～3年	30.7	42.0	(72.7)	19.8	7.5
4～5年	30.7	43.8	(74.5)	16.3	9.2
6～9年	38.5	39.6	(78.1)	13.6	8.3
10年以上	35.5	41.3	(76.8)	18.1	5.1
全体	33.3	40.3	(73.6)	18.9	7.5

## 2) 虐待と養育困難

次に虐待と養育困難との関連をみる。表 22 が示すように、養育が「ひどく難しい子」の中で、「虐待あり」の子は 78.8%、他の 3 群とやや差があるが、しかし大きな差ではない。また、「とても育てやすい子」の中にも、虐待を受けた子が 62.1%いる。一概に「虐待を受けた」と言っても、その種類や年齢、受けた期間などにもよると思われ、またレジリエンス（立ち直り力）の差もあると思われるが、単なる虐待の有無以上に、「育て難さの要因」が個人の中にあるのではなかろうか。この点は後に(4.養育困難の分析で)詳しく見ていく。

表 22 虐待の有無×養育困難

(%)

		虐待あり	虐待なし	不明
全体		70.3	23.4	6.3
養育困難	ひどく難しい子	78.8	15.4	5.8
	ふつう位に難しい子	67.2	25.2	7.6
	わりと育てやすい子	65.7	32.2	2.1
	とても育てやすい子	62.1	27.6	10.3

## 3) 気持の通じ合いと養育困難

では「気持ちの通じ合い」との関連はどうか。表 23 を見ると、気持ちが通じ合うかと、養育困難には、密接な関連がみられる。「養育がひどく困難」な群では、12.8%が「どうしても気持ちが通じ合わない」としているが、他の 2 群では、3.6%と 2.4%で、「とても育てやすい」群では 0%である。逆に里子を「とても育てやすい」とした者は、「とても通じる」が 72.1%で、他の群と大差である。「養育困難」と「気持ちの通じ合い」には大きな関連が見られる。しかし養育困難の度合いが、全て「気持ちの通じ合い」などの心理的要因に規定されるわけではない。子どもの中にある発達上の問題（育て難さ）も大きく関与しているであろうし、逆にそうしたネガティブな特性が、「気持ちの通じ合い」阻むことも十分考えられる。次からは、そうした里子の中にある個人的要因を見ていく。

表 23 気持の通じ合い×養育困難

(%)

	どうしても通じない	時々通じない	わりと通じる	とても通じる
ひどく困難	12.8	43.2	29.4	14.5
ふつう位に困難	3.6	33.8	43.1	19.1
わりと育てやすい	2.4	16.5	50.6	30.6

とても育てやすい	0.0	5.9	22.1	72.1
----------	-----	-----	------	------

#### 4. 養育困難と里子の発達上の問題

里親の養育困難の現状に、「ひどく困難」から「とても育てやすい」迄、なぜ少なからぬ差が生じるかは、これまでの資料だけでは、必ずしも十分な説明ができたとは言えない。そこで、検討してきたデモグラフィックな要因や、虐待を受けた経験、里親子間の「気持ちの通じ合い」以外に、里子の中の育て難さの個人差（発達の偏りや、性格・行動上の問題）、とりわけネガティブな特性に注目して検討を試みる。

こうした育て難さの個人差への関心は、近年における子どもの「発達障害」への関心の高まりの中にも見ることができる。この概念については、いまだ輪郭が曖昧な部分もあり、またその発生原因もよく分かっていないが、何らかの理由から通常発達とはやや違った姿、行動上の偏りを示す一群の子どもたちの存在についての注目である。発達上こうした特徴をもつ子どもを育てるのは、どの親にとっても苦勞が多いと思われるが、そうした子どもたちのそれぞれのニーズに合わせた支援のために、学校でも近年、少人数の「特別支援学級」を置くようになった。

##### 1) 特徴ある発達の姿を見せる子どもたち

親から虐待を受けた子の割合は、本研究では7割であった（表14）。先行研究には、被虐待児の中に、発達障害やそれに近い問題を抱えた子どもが多いとの指摘もある。

例えば愛知県大府市にある「あいち小児医療研究センター」の心療科は、子ども虐待の専門外来を置く機関だが、2001年から2009年に受診した子ども虐待の症例を分類したところ、53%に発達障害が認められたと報告している。（表A参照）また逆に、各種の発達障害の存在が、親の「子ども虐待」を引き起こす可能性も指摘され、両方の要因から、通常より里親の里子養育の困難度が高まる可能性も考えられる。

表A 子ども虐待の症例に認めた併存症（2001～2009年）

N=916

併存症	人数	%
広汎性発達障害	244	20.6
ADHD	153	16.7
その他の発達障害	86	9.4
反応性愛着障害	418	45.6
解離性障害	434	47.4
PTSD	308	33.6
反抗挑戦性障害	133	14.5
行為障害	269	29.1

川村昌代・杉山登志郎 2010 臨床心理学臨増2号 金剛出版

里子には、しばしば虐待のトラウマを抱えている子だけでなく、とりわけ発達上に問題を抱える子、発達障害\*やそれに近い傾向のある子ども等が通常より多い可能性が考えられる。

\*「発達障害」の状態にあるかどうかは、厳密には医師の診断によるが、おおまかには、自閉症スペクトラム障害（ASD）、学習障害（LD）、注意欠陥多動性障害

(ADHD)などに分類されている。しかし子どもの場合は、発達段階上の特質から、それらに似た行動を示す場合も多く、こうした診断名を付けることには、医師も慎重に経過をみるようである。

子育ての過程にあって不安や困難はつきものだが、里親の場合には、通常の子育てより、一層むずかしい子どもが委託される可能性も考えられる。そこで、委託された里子の中にある育て難さ(発達の遅れや偏りの存在)を見ておくことが、里親支援のために必要ではなかろうか。

## 2) 質問項目の構成

里子の中の「発達上の問題」の有無と養育困難との関連をみるために、先行研究の中から、「学習力の問題」、「態度の不安定性」、「人との関係を築く力の乏しさ」等の特徴についての17項目を選び出した。巻末のアンケート用紙の4頁の12項目、5頁冒頭の5項目がそれである。

これらは、①(LD等の子どもに見られる)言葉の発達の遅れや学習のつまずきなど「学習力上の問題」(調査票3頁1~6)、②(ADHD等の子どもに見られる)落ち着きがなく、集中できない、マイペースで突発的に行動する、情緒不安定、自分の世界にこもる等の「態度の不安定性」(同3頁7~12)と、③(ASD傾向の子どもに見られる)人間関係を築く力が乏しく、相手の気持ちを察する力が乏しい等の「人との関係を築く力の乏しさ」(同4頁1~6)の項目から構成した。

## 3) 学習力上の問題(言葉の発達や学習のつまずき)

### (1) 学業成績全体と養育困難

学習能力についての個別の問題を扱う前に、トータルな学業成績と養育困難との関連をみておく。先に表13で見たように、成績が中の下と下の子どもを併せると5割近くで、里子たち全体は、やや成績不振である。また表24には、養育困難との関係を示した。成績と養育困難とは関連があって、小計の数字を見ると、「中の上」では養育困難を感じる里親は5割程度だが、「中位」では69.4%、「中の下」だと80.6%、「下」では84.9%と、養育困難感の割合が増加していく。

表24 学業成績×養育困難 (%)

	ひどく困難	普通位困難	(困難・小計)	わりとやさしい	とてもやさしい
全体	33.3	40.3	(73.6)	18.9	7.5
とてもよい	30.0	28.8	(58.8)	25.0	16.2
中の上	23.1	30.5	(53.6)	26.9	19.5
中位	26.5	42.8	(69.4)	21.4	9.3
中の下	42.1	39.5	(80.6)	12.6	5.8
下のほう	43.0	41.9	(84.9)	13.6	1.5

### (2) 言葉の発達や学習のつまずき(学習障害)の現状と養育困難

表25に示したように、「文章を理解することが苦手」などの6項目について、「とてもその通り」とした里親は、①文章理解が苦手から、⑤字を書くのが苦手迄、それぞれ2割前後見られる。また「とても・少し」その通りの数値を合わせると、⑤文章を読んで理解す

るのが苦手 (51.4%)、③特定科目だけが、とくに苦手 (50.3%)、②勉強のほとんど全般が苦手 (47.9%)、④言葉の遅れがある (39.1%) ⑤字を書くのが苦手 (37.7%) ⑥手先が不器用 (33.8%) のような傾向も見受けられる。なお調査票上でこれらの項目の多くに当てはまり、学習に専門家の援助が必要と思われる子どもも見受けられる。なお、すでに表 11 で見たように、特別支援学級に在籍している子は 15.3%である。

表 25 A ちゃんの苦手な学習や発達の遅れ (%)

	とてもその通り	少しその通り	あまりそうでない	全くそうでない
①文章理解が苦手	25.4	26.0	22.0	26.6
②勉強が全体に苦手	23.1	24.8	29.7	22.5
③特定科目が苦手	22.9	27.4	27.7	21.9
④字を書くのが苦手	17.9	19.8	30.5	31.8
⑤手先が不器用	13.3	20.5	31.7	34.5
⑥言葉の遅れ	18.0	21.1	15.0	45.9

次に、そうした学習力に問題のある傾向と「養育困難」との関連では、表 26 が示すように、①から⑥までのどの項目についても、養育困難と学習力の問題は密接な関連が見られる。「ひどく養育が困難」な群は、それぞれの項目で「苦手さ」が非常に顕著だが、「わりと育てやすい子」「とても育てやすい子」では、数字は大きく減少する。「①文章理解が苦手」に例をとれば、「ひどく困難な群」では「とてもその通り」とする里親は 33.7%、以下 23.6%、17.5%、5.3%と続く。「④字を書くのが苦手」では、24.8%、16.1%、13.6%、2.6%。「⑥言葉の遅れ」では、36.8%、14.8%、10.8%、7.7%である。

学習や発達に遅れのある特徴をもつ子どもの里親は、里子の養育が難しいと感じていることがわかる。むろん実子の場合にも、言葉の遅れや学習のつまづきに悩む親は多いと思われるが、問題はその度合いかもしれない。

表 26 A ちゃん (抽出児) の苦手な学習や発達の遅れ×養育困難 (%)

	ひどく困難	ふつう位に困難	わりと育てやすい	とても育てやすい
①文章理解が苦手	33.7*	23.6	17.5	5.3
②勉強が全体に苦手	31.6	22.0	13.3	2.6
③特定科目が苦手	29.9	22.3	16.7	10.5
④字を書くのが苦手	24.8	16.1	13.6	2.6
⑤手先が不器用	19.0	11.1	11.5	2.5
⑥言葉の遅れ	26.8	14.8	10.8	7.7
平均	27.6	18.3	13.9	5.2

\*とてもその通りの割合

#### 4) 行動の不安定性 (落ち着きがなくマイペース) と養育困難

表 27 に示したように、学習困難の問題と同様、6 項目 (4 頁 7~12) のそれぞれに「とてもその通り」とした数値は 1 割から 2 割に達する。また「少しその通り」を合わせた小計の数値は、「②行動がマイペース」の 53.6%を筆頭に、「⑥すぐに自分の世界に入っ

まう」が35.6%と高い割合を示す。他の項目も、47.7%、39.7%、42.1%、35.6%と高い数値を示す。さらに養育困難との関連を表28に示した。どの項目についても、落ち着きがなく不安定な傾向は、「養育のひどく困難な」群に顕著であり、「やや育てやすい、とても育てやすい」群の数値は大きく減少している。とくに「とても育てやすい」群では、ひとケタ台である。「①落ち着きがない」を例にとると、「とてもその通り」は、「ひどく困難」な群では37.3%、以下、33.0%、21.7%、8.0%となっている。仮に6項目の平均値を出してみると、36.4%、24.6%、13.0%、5.5%で、とても育てやすい子どもは、こうした傾向がほとんど見られない。以下の5項目でも同様である。

表27 Aちゃんの行動の不安定性 (％)

	とてもその通り	少しその通り	あまりそうでない	全くそうでない
①落ち着きがない	19.4	31.2	30.3	19.1
②行動がマイペース	19.2	34.4	27.3	19.0
③情緒が不安定	18.4	29.3	26.7	25.6
④考えられない行動	16.3	23.4	31.8	28.5
⑤固まってしまう	14.4	27.7	29.4	28.5
⑥すぐに自分の世界に	10.7	24.9	35.7	28.7

表28 行動の不安定性×養育困難 (％)

	ひどく困難	ふつう位に困難	やや育てやすい	とても育てやすい
①落ち着きがない	37.3	33.0	21.7	8.0
②行動がマイペース	42.3	34.2	17.1	6.4
③情緒が不安定	42.4	33.4	16.6	7.6
④考えられない行動	41.8	32.7	18.0	7.5
⑤固まってしまう	27.8	9.8	4.1	3.2
⑥すぐに自分の世界に	26.9	4.6	0.6	0.0
6項目の平均	36.4	24.6	13.0	5.5

\*とてもその通りの％

こうした不安定な傾向の内容を示すのが、「④ふつうの子には考えられない行動をする」とした里親が、自由記述欄に記入した具体的な里子の行動であろう。巻末の<資料2>にそれを収録したが、里親が当惑し、驚愕した里子の行動は次のような種類にわたっている。委託当初の退行とはまた別の里子の姿は、里親が養育困難な状況の一端を物語っているかのようである。

-----  
 <里子の示したふつうでは考えられない行動 (巻末資料3より) >

- I.キレル、パニックを起こす
- II.暴力・暴言
- III.常識を欠く・危険が分からない
- IV.不連続・不安定
- V.非行・不道徳



VI.性的行動

VII.1人で遠出・知らない人について行く

VIII.心を閉ざす・固まる・別世界に入る・独り言

IX.生活習慣の形成不全・常識を欠く

5) 人間関係の不器用さ

(1) 人間関係の不器用さと虐待・気持ちの通じ合い

調査票4頁4には、次からの質問の導入として「最近の子どもは、人間関係が不器用で、『人とつながる力や、場の空気を読む力、相手の気持ちを察する力が弱い』と言われます。Aちゃんにも、こうした傾向を感じられますか」を置いた。まずこの設問の結果を見てみよう(表29)。

表29 (最近の子どもの傾向である) 人間関係の不器用さがAちゃんにも感じられるか (%)

	とても そう思う	少し そう思う	あまりそ うでない	全くそう でない
全体	20.0	25.2	29.2	25.6

表が示すように、全体としては肯定と否定がほぼ半々である。

また表30で虐待の有無との関連をみると、虐待を受けた子どもには、やや人間関係の不器用さが見られる。つづいて気持ちを通じ合うかとの関連をみると「どうしても気持ちを通じ合わない」とした里親は、「とても不器用」とする者が62.5%と他の群を圧して多い。以下、「時々通じない」群が28.9%、「わりと通じる」群が11.6%、「とても通じる」群ではわずか9%である。気持ちを通じ合うかには、こうした、人とつながる力、場の空気を読む力、相手の気持ちを察する力などの、人間関係をつくる力の有無がかかわっているのかもしれない。

表30 人間関係の不器用さ×虐待、気持ちの通じ合い (%)

		とても そう思う	少し そう思う	あまりそ うでない	全くそう でない
虐待	あり	23.8	26.3	26.8	23.1
	なし	10.3	24.0	30.9	34.9
気持ちの 通じ合い	通じ合わない	62.5	21.4	10.7	5.4
	時々通じない	28.9	33.3	25.8	12.0
	わりと通じる	11.6	26.4	37.4	24.6
	とても通じる	9.0	12.7	25.9	52.4

(2) 人間関係の不器用さと養育困難

また表31では、養育困難な子との関連を見ている。「養育がひどく難しい」とする群では、Aちゃんに「人間関係が不器用」と「とても思う」里親が45.2%、他の3群では、10.4%、4.1%、0.0%で、と差が大きい。

表 31 人間関係の不器用さ×養育困難 (%)

		とても 思う	わりと 思う	あまり思 わない	そう思 わない
養育困 難	ひどく難しい	45.2	29.6	18.3	7.0
	普通程度に難しい	10.4	30.8	35.4	23.4
	わりと育てやすい	4.1	14.5	37.2	44.2
	とても育てやすい	0.0	0.0	25.0	75.0
全体		20.0	25.2	29.2	25.6

## 6) 人との関係を築く力の乏しさと虐待、養育困難

表 32 は、5 頁 5 の 1) から 6) に掲げた対人関係上の問題「1.相手の気持ちを察する力が乏しい 2.気がつかずに相手の気に障るような言葉を言う 3.わざと相手の気に障るような言葉を言う、4.ひとの好意や愛情を理解することができない 5.ひとへの「思いやり」や優しさが無い 6.友だちといざこざを起こしやすい」など、前項をさらに詳細に、「人との関係を築く力」の乏しさの項目について見ようとした。

「とてもその通り」の数値は、前掲の学習上の問題や行動の不安定性に比べると、どれも低いですが、しかし「少しその通り」を合わせると、①「気がつかずに、気に障る言葉を言う」39.8%、②「相手の気持ちを察する力がない」38.3%、③「わざと気に障る言葉を言う」29.9%、④「人の気持ちを理解できない」30.1%、⑤「人への思いやりがない」30.1%と、ふつうよりやや高く、人との関係を築く力が乏しい傾向がみられる。結果として、⑥「友だちといざこざを起こしやすい」(27.8%) 結果となるのであろう。

次に表 33 には、養育困難との関連を掲げた。

「養育がひどく困難な群」は、他の 3 群を圧して「とてもその通り」の数値が高い。「⑤ひとへの思いやり」を除いて、2 割から 3 割近い里親がそれぞれの項目に、「とてもその通り」としているのに対して、他の 3 群は極めて低く、肯定する数値は 1 ケタ台である。ここでも 6 項目の平均値は、13.3%、4.2%、2.3%、0.3%となっている。

表 32 人との関係を築く力の乏しさ (%)

	とても その通り	少し その通り	あまりそ うでない	全くそう でない
①気がつかずに気に障る言葉を言う	12.6	27.2	39.3	20.9
②相手の気持ちを察する力がない	11.8	26.5	37.2	24.5
③わざと気に障る言葉を言う	9.6	20.3	43.8	26.3
④人の気持ちを理解できない	8.8	21.3	40.7	29.1
⑤人への思いやりがない	5.2	16.8	42.2	30.2
⑥友だちといざこざを起こしがち	8.6	19.2	42.0	30.2

表 33 人との関係を築く力の乏しさ×養育困難 (%)

	ひどく 困難	ふつう位 困難	わりと育 てやすい	とても育 てやすい
①気がつかずに気に障る言葉を言う	29.1	5.9	3.6	0.0
②相手の気持ちを察する力がない	25.7	6.7	2.3	0.0
③わざと気に障る言葉を言う	23.4	3.7	2.4	0.0
④人の気持ちを理解できない	20.9	3.1	2.9	1.6

⑤人への思いやりがない	11.6	2.8	1.3	0.0
⑥友だちといざこざを起こしがち	22.0	2.7	1.3	0.0
平均	13.3	4.2	2.3	0.3

\*数値は4段階尺度で、「とてもその通り」の割合

次に、あらためて虐待の有無との関連を見てみる。表34で見るように、虐待を受けた子どもの行動の不安定性は、いずれの項目でも大きい。6項目で「とてもその通り」とした割合の平均は19.7%、10.5%となっている。

表34 不安定性×虐待の有無 (%)

	虐待あり	虐待なし	不明
①落ち着きがない	23.5	9.6	19.1
②行動がマイペース	22.9	15.1	21.7
③情緒が不安定	22.8	10.3	17.0
④考えられない行動	20.2	9.4	12.8
⑤すぐ固まってしまう	16.8	12.6	10.4
⑥すぐ自分の世界に入る	12.2	5.7	10.6
6項目の平均	19.7	10.5	15.3

\*数値は4段階尺度で、「とてもその通り」の割合

## 5) 養育のつまずき

### 1) 養育返上を考えたこと

養育のむずかしい里子を抱えて、里親たちは何を思っているのだろうか。もしかしたら、里子の養育に思い悩んで、養育返上を考えた日もあったかもしれない。表35は「里子としてお育てのAちゃんについて、養育が行き詰って、養育の返上（措置変更、措置解除）をしたいと思ったことが、おありでしたか」と尋ねた結果である。

「養育を返上しようと、何度も真剣に考えた」里親は7.7%だが、「養育を返上したい気持ちになったことも、何回かある」と答えた里親も21.9%いて、併せると3割は、養育返上を思ったことがあったと言っている。

表35 養育返上を考えたこと (%)

	何度も真剣に考えた	何回かあった	ほとんどなかった	全くなかった
全体	7.7	21.9	17.4	53.0

しかし養育返上を思う前にも、迷いの日々があったに違いない。里子を育てる難しさから、「あなたは『自分に、完全に自信をなくしてしまった』ことがありましたか」と尋ねた結果が表36である。

「わりとあった」と答えた里親は17.3%。「少しあった」が32%で、併せると半分位の里親が、そうした日々があったと答えている。育児は誰にとっても、親として何かにつまずいて、思い悩むこともあるだろうが、「自分に完全に自信を失う」迄に至らないのではと思われる。里親としての日々が、いかに迷いや苦労の連続かを物語る数字であろう。

では、さらに「(もしかしたら) この子は(難しい子なので)、家庭養育より、施設養育の方が向いている子かもしれない」(養育を返上したほうがいいかもしれない) と、自分の手で里子を育てることに疑問を感じることもあったのだろうか。

表 37 を見ると、そう考えた里親はごく少数である。「時々思ったが」が 9.4%、「たまに思った」が 16.1%で、併せて 2 割でしかなく、74.5%が「(ほとんど・全く) そう思わなかった」と言っている。子どもは、どんな難しい子であっても、家庭的養育の下で育つのが一番の幸せだとの思いが、里親志望の強い動機の一つだったのかもしれない。

表 36 養育に自信を無くしたこと (%)

	わりとあった	少しあった	あまりなかった	全くなかった
全体	17.3	32.0	28.4	22.3

表 37 家庭養育より施設養育に向いている子かもしれない (%)

	時々思った	たまに思った	思わなかった
全体	9.4	16.1	74.5

## 2) なぜ、養育を返上しなかったか

では、養育返上を考えたことがあった 3 割の里親に、それでも養育返上をしなかった理由はなぜだったのかを尋ねた。

### (1) 責任感と信念から

表 38 は、「(養育返上の気持ちがあった) と答えられた方に、結局返上をされなかった理由はなぜですか」と尋ねた結果である。

まず、里子の養育に対する「①責任感」の存在が指摘される。「里子への責任を考えて」に対して、「とてもそう」とした里親は 60%、「わりとそう」を併せると、実に 85%の人々が「里子への責任から」と答えている。「違う」(そうではなかった)とした者は、わずか 3.8%である。同様にそうしたいわば「心の強さ」と関連して、「②自分の信念を通じたかった」とした人びとがいる。「とてもそう」が 28.9%、「わりとそう」が 29.8%で、併せて、6 割近い人が、「自分の信念を通じたかった」から、と答えている。「違う」は 18.3%である。

そうした里子の養育への強い思いに比べると、外側からの力を示す数字はやや低い。「③周囲の励ましに支えられて」では、「とてもそう」は 29.2%、「わりとそう」がやや減って 18.3%、併せて 47.5%となっている。そして「違う(サポートや励ましからではない)」と言い切った者も 30.4%いる。周囲からのサポートの種類はそれぞれであろうが、それに支えられた人々もあるが、「自分の力」で強く乗り越える人が多数であることを示している。

表 38 養育を返上をしなかった理由\* (%)

	とても	わりと	少し	違う
①里子に対する責任を考えて	60.0	25.4	10.8	3.8
②自分の信念を通じたかった	28.9	29.8	23.0	18.3
③周囲の励ましに支えられて	29.2	18.3	22.1	30.4

\* 「返上を考えた」人の中で